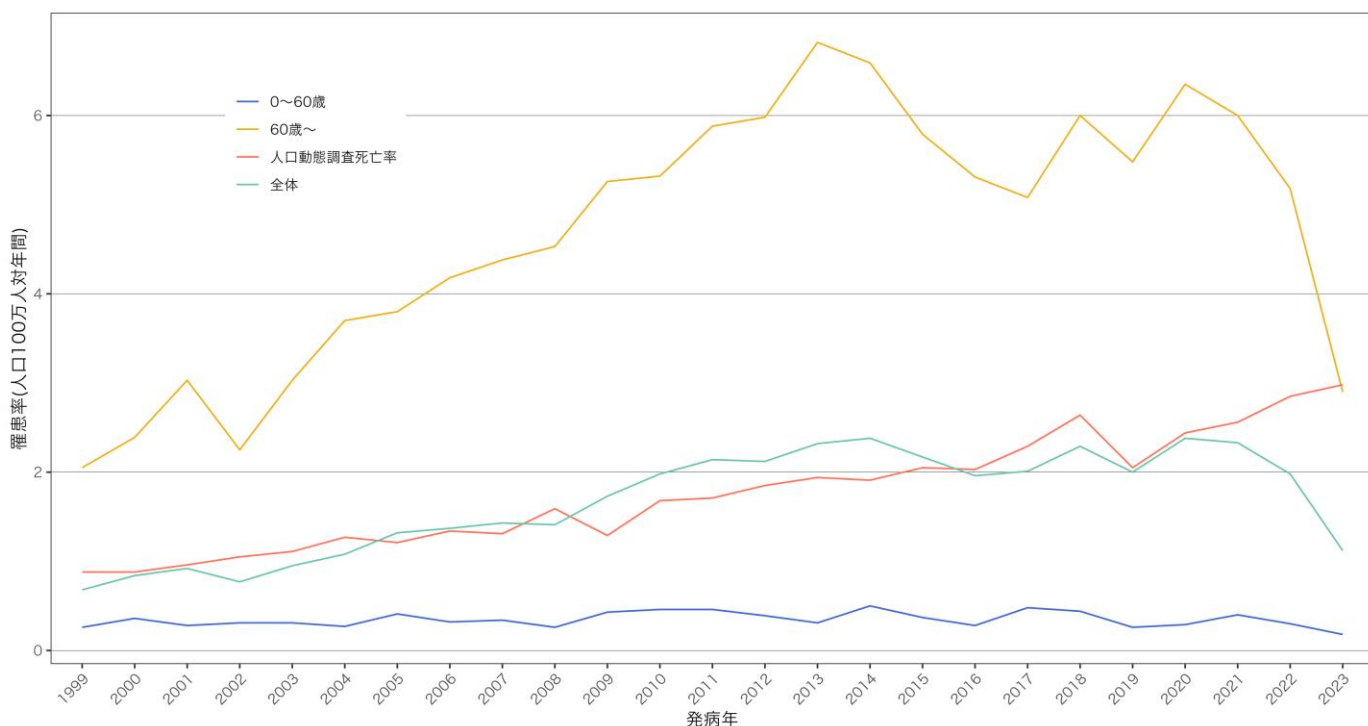


全国サーベイランスに基づくわが国の プリオン病の疫学像(1999年～2024年)

研究分担者: 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 阿江竜介



解 説

1. サーベイランス結果から計算した年齢層ごとのプリオン病の罹患率を示している。
(参考に人口動態調査から計算したクロイツフェルト・ヤコブ病の死亡率を示している。)
2. 60歳以上の年齢層で罹患率は増加傾向である。
3. 症例が登録されるまでに数年を要するため、近年の罹患率は見かけ上減少している。
4. サーベイランスの継続に従い、罹患率は人口動態調査の結果に近づいていくと予想される。